

平成30年度 青年期からの健口力向上モデル事業報告（概要版）

1. 目的

思春期から青年期にかけては、進学や就職による環境変化に伴い、生活習慣が不規則になり、むし歯や歯周病のリスクが高まる。さらに智歯周囲や顎関節のトラブルも多い。しかし、高校卒業後以降の歯科健診は義務づけられておらず、集団歯科健診を受ける機会が全くない。そこで、青年期の口腔内の状況及び歯科保健行動の実態を把握し、定期的な歯科受診をはじめとした適切な歯科保健行動の習慣化を青年期から確立することを推進するための方策を検討するための資料とすることを目的とした。

2. 事業内容

(1) 歯科健診のモデル実施

- ①内容 学生定期健康診断実施日等に歯科健診を実施
- ②対象 県内モデル5大学の在校生
- ③実施方法

各大学在校生の希望者に、歯科健康診査ならびに歯科保健指導、歯科保健行動について及び今回の歯科健診に対するアンケートを実施した。歯科健康診査はミラーを用いた視診のみを行い、歯科保健指導はフロスの指導や親知らずの磨き方の指導などを行った。

(2) 事後アンケートの実施

3か月後にウェブアンケートにて受診後の行動変容調査を実施した。

3. 結果

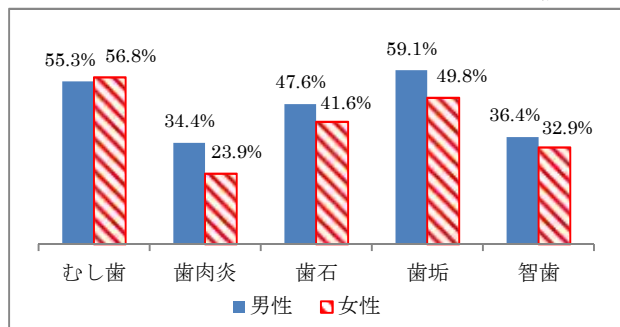
(1) 歯科健診のモデル実施の結果

①大学別実施状況

	対象者数	受診者数			受診率	備考
		男	女	計		
A大学	2,076	195	296	491	23.7%	定期健康診断と同日に実施
B大学	2,350	122	356	478	20.3%	同日に実施
C大学	399	0	53	53	13.3%	別日に実施
D大学	1,692	13	20	33	2.0%	別日に実施
E大学	3,682	9	4	13	0.4%	定期健康診断予備日に実施
合計	10,199	339	729	1,068	10.5%	

②歯科健診結果

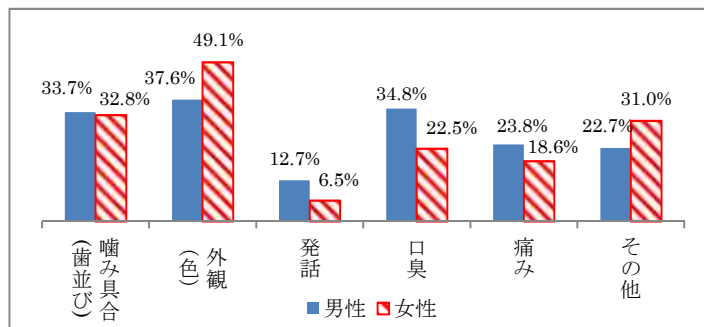
県内モデル5大学の健診結果（平均値）



*むし歯は治療済み歯を含む

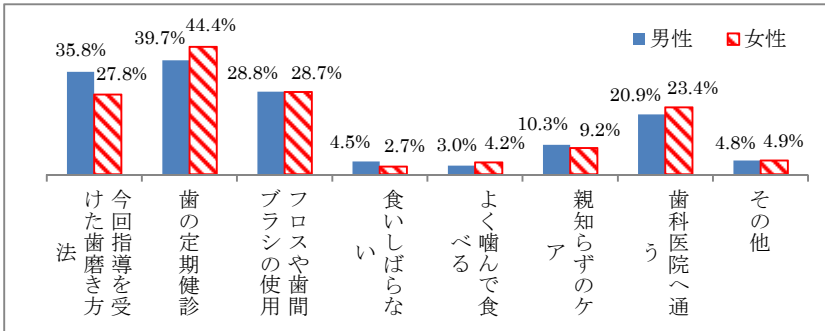
③歯科保健行動についてのアンケート結果

現在、口腔内に気になることがある (53.2%)

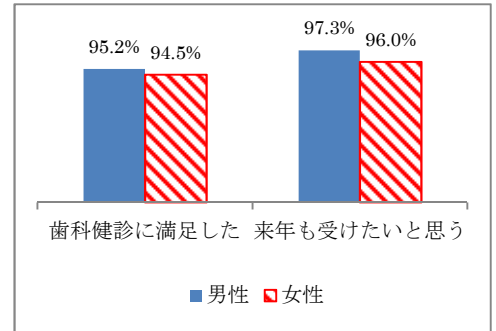


④当日アンケート回答（抜粋）＜回答率 95.8％＞

(i) 歯科健診を受けて今後実行しようと思うこと（複数回答）

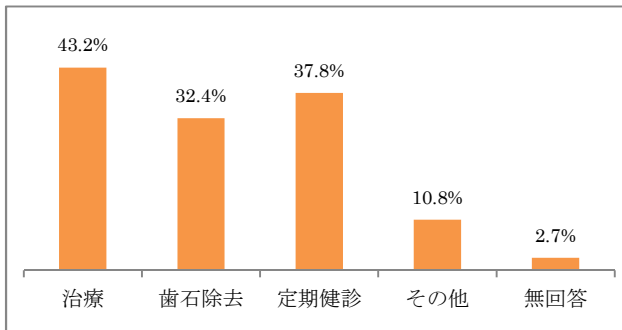


(ii) 歯科健診の満足度

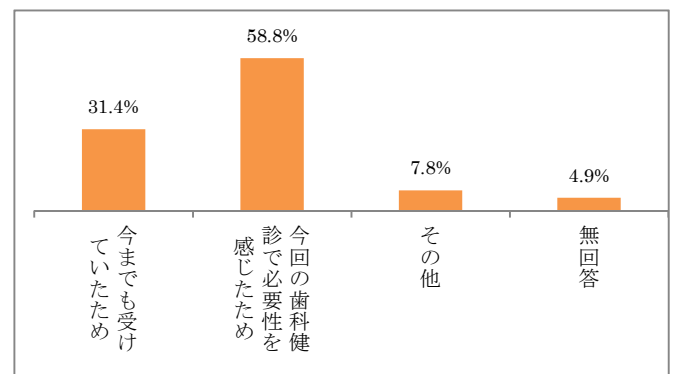


(2) 事後アンケートの実施結果（3ヶ月後）（抜粋）＜回答率 11.6％＞

①歯科健診後に歯科を受診した人（29.8％）の受診の目的（複数回答）



②定期健診を受けようと思った理由



4. 考察

- 大学生では男性で3割以上に歯肉炎があることがわかり、歯肉炎のある者は高校生の3倍以上に増加していた。歯肉炎は成人期以降に歯周病へと進行しやすく、大学在学中から適切な歯のメンテナンス方法を知ることが必要である。
- 歯科健診後のアンケートでは、今後実行しようと思うこととして「定期歯科健診」に行くという回答が最も多かった。実際、本健診後に歯科医院を受診した者は本健診を受診しなかった者より多かった。その受診理由として、むし歯等の治療について定期歯科健診が多かったことから、本健診は、定期歯科健診を持続するきっかけとなっていた。
- 本事業は、大学での集団型歯科健診の形式で実施したため、検査内容は簡易であったが、学生の満足度は94.7%であり、さらに96.4%が来年も受けたいと希望しており、学生のニーズは高いと考えられた。

歯科健診の実施日程に関しては、定期健康診断と同時に実施した大学の受診率が圧倒的に高かった。大学等の定期健診時に歯科健診を同時に受ける機会があれば、学生一人ひとりが健康な歯を維持する知識と習慣を身につけられる貴重な機会になり、将来、生活習慣病の予防にもつながると期待される。

5. 結論

歯科健診及び歯科保健指導の機会を設けることで学生の口腔衛生に対する意識が向上した。また、次年度の健診継続を希望する学生のニーズが高かった。

今後は、大学生等の歯科口腔保健に関する意識の向上を図るための啓発や、大学等の教育機関における歯科口腔保健に関する健康管理の充実に向けた働きかけを検討していきたい。